

# 北社会ニュース オワ号

2005-10-19

発行：鈴木壮夫

本日の講師、和賀井敏夫大先輩に厚く御礼申し上げます。

講師に若い人がいなかったら、講師がどうしても見付からなかったら、そんな場合、「私で良ければ、代打・埋め草を努めるこぼれ話しはできますよ」とのメールを先月の北社会の翌日いただきました。謙虚で自発的なご提案であり、何よりも北社会会員であるという当事者意識一ひとりひとりが会を作り、盛り上げていくに感謝もし、あらためて会員の何たるかを学ばせていただきました。

数か月前、青山史朗大先輩からも同様なご提案をいただきました。同窓会の小さな組織とは云え、講師を引き受け、会員を前にして語りかけていく、並大抵ではやれません。それでも、会員の皆さん、一步も二歩も踏み出して「北社会」の運営にさらなるご協力をお願い致します。

「取り上げたい話題」「聞いてみたい人」等々、どんなことでも世話人に話しかけていただきたいのです。「幹事」ではなく「世話人」という言葉を使っているのは、値する器量を持ち合わせて無いことが主たる理由ですが、会員の皆さんの「当事者意識をお世話していく」考えに基づいているためです。

こんなお気持ちを抱いて和賀井大先輩の独創精神と勇気をご拝聴下さい。

尚、私のメールを読んだ阿部孝氏（高27回）－IBMビジネスコンサルティングサービス（株）－より「日本におけるインターネットの利用動向」等、北社会のテーマとして興味がありましたらと、講師の提案がありました。来年早々の候補とさせていただきます。

## <来月以降の講演予定>

11月16日（水） 講師：菅間（かんま）進氏（高21）－前・県議会議員－  
最新「宮城・仙台」の諸事情

（会員の多くは人口30数万人の仙台しか知らず、最近の仙台ではSTRANGERだと思う。今夏の仙台市長選挙に立候補された同氏に最新情報をお聞きします）



12月：師走で心せわしいでしょうから今年も休会にします。

かんま進氏

1月18日（水） 年頭総会

（2006年の運営計画概要・2005年会計報告・懇親会）

## <鈴木壮夫の戯言－三日連続のお客さん－>

そば屋をやって8年目。三日連続でご来店いただいたお客さんはさすがに珍しい。一段落した午後その同世代と思われるご夫婦にご来店いただいた。二日目、家内が「今日もありがとうございます」と御礼を述べると、奥さんが「私達は横浜に住んでいるが、川越の帯津三敬病院にこの主人がベットが空きしだい入院することになった。」と話された。翌日、三日連続でご来店いただいた。タクシーを待っている間、初めてご主人と話した。ソバの知識が豊富で三日連続で百丈のソバを味わえる幸せとか、活字にはとてもできないお褒めの言葉を苦しそうにしながらも語ってくれた。翌々日、又ご来店いただいた。

「ベットが空いたので明日入院できる。退院したらまた来ます」と語り、初めてお名前を伺い、Nさんと知った。同病院の名誉院長帯津良一さんは百丈のお客さんで4-5年来、懇意にさせていただき、書籍を出版される度にいただきもう6冊になりました。その日、帯津さんにNさんのこととお便りしました。翌日午後、奥さんより電話があり、「帯津先生が手紙を握り締め私服のまま病室に来ていただいた。えんもゆかりも無い私たちへの好意本当にありがとう」受けた家内が私に言った。「奥さん泣いていた」と。一週間後、お見舞いに行つてNさんに引留められ1時間以上もお話を聞いた。老けて見えたが生れは私よりひと月早い昭和16年2月、同学年でもっとびっくりしたのはそば屋の同業者だと話された時だった。業界の名門「一茶庵」での数年間の修業経験等、素人の私には経験できなかった厳しい苦闘物語だった。家庭環境にも驚かされた。昭和19年、妹が産まれる直前、お父さんはサイパン島で戦死、戦後お母さんがそば屋を立ち上げ、育ててくれた。中学校を卒業するとすぐ母のそば屋を手伝い、もう50年になろうとしている。そば屋がイヤになったことも再三あった。でも、他に道はなく、一茶庵での修業もした。「酒も煙草もやらないのに残念!」と語ってくれた。握手して励まし外に出た。台風の余波で雨が強かった。傘をしっかりと握って歩きながら、Nさんに比べ自分は何と幸せだったのかと、あらためて感謝せざるをえなかった。「百丈」を窓口にして社会と向き合い、少しでも貢献できたらと心を強くしている昨今です。(この戯言は18日の午前3時頃から書き始めました。いつも午後9時頃には寝ていますが31年振りのロツテの優勝を見たくて昨夜は10時就寝でした。それが、4時間後の2時には眼がさえて、まあ~やることもあるからと起床した次第です。店でソバを打っていた8時頃、Nさんの奥さんから電話が入りました。泣き声でした。「午前2時に主人が亡くなった。磯子は混むので、直ぐに遺体を川越から横浜に運んだ。人生の最後の最後にソバの話があなたのおかげでやれた。その時だけ、主人はイキイキしていた。本当にありがとうございました。」お悔やみを述べて事務的に奥さんのお名前と住所を書き留めました。一瞬茫然となりましたが、すぐソバ打ちを続行しました。集中しながら、「虫の知らせ」を意識しました。戯言を書いているちょうどその時間、遺体が運ばれていたのです。そして、もう一つ思い出すNさんの一言。「来年の春、元気になって靖国神社の桜を見たい。記憶の無いオヤジだが・・・」。病室の前で手を振って送ってくれたNさん安らかに!合掌!)

#### ＜吹奏楽部創部50周年記念パーティ・1955-2005＞

ブラスバンド部が半世紀の歴史を創った。10月2日、東北大学川内記念講堂にて高11回から57回までの40数人が記念演奏した。公立・私立女子校のOG達が立ち席でもいいから会場に入れて欲しいと懇願していたと同期の白庭君から聞いた。OB会は塩出俊一さん(高13回)が中心になって、4-5年前結成された。塩出さん達13同期生の努力が結晶され、開花した「50周年」だと感謝している。パーティ当日は日曜日。私は午後から「はやて」で日帰りした。仙台国際ホテルでのパーティは約80人、親子程トシが違う集まりだったが、楽しかった。創部第一期生は高9回、私は11回、宮城県内に仙台二高ブラバンを認知させたのは、昭和33年、総体の入場式の東北高との初めての共演だった。在校当時、ご指導いただいた海軍軍楽隊ご出身の小野先生にもお会いした。お元気そのもの、安心した。パーティの最後を演じたのは即編成のJAZZ BAND。在京同窓会をも盛り上げてくれると直感した。右の写真、トランペットを吹いている頭髪ふさふさの若者(補習科時代?)が私です。裸足でカッコいいですね!!!

